

手と手をつないで



No.397

やまもと しんや
山本 信哉
(元小学校教諭)

「二本の鉛筆」という
歌をご存じですか？

美空ひばりさんが1974

年8月、第1回広島平和音楽祭で発表した曲です。「二本の鉛筆」は、ひばりさんが大切にしたり曲の一つだそうです。ひばりさんはこの曲の中で切々と反戦を訴えています。

「戦争は最大の人権侵害である」といわれます。戦争は、人の命、人のくらし、大切にしているものすべてを奪っていきます。昨年、終戦から80年目の夏を迎えました。新聞、テレビ、映画、本などに

よってさまざまな視点から戦争の様相が語られました。それら報道の中で、ハッとさせられた言葉がありました。

「私の父は優しい人だった。その優しい父が戦争で人を殺めた。鉄砲を撃つなんてできるはずのない人が。」

テレビの中で、ある女性が語った言葉です。

人を被害者にし、加害者にもする、それが戦争なのだと改めて気づかされた言葉でした。もしかしたら私が、もしかししたら私の家族の誰かが人の命を奪うことになるかもしれないと思うと戦争で被害に遭うのと同じぐらいの恐怖を感じました。

今、テレビや新聞、SNS

などで、世界で起こっている戦争が報道されています。目を覆うばかりの惨状が映像となって映し出されています。命が奪われていること、くらしが奪われていること、その苦しみや悲しみが毎日のように報道されています。また、戦争は当事国だけでなく、世界中を混乱に陥れることがわかります。平和であることはあたりまえではないと思い知らされます。

戦争を経験し、戦争を証言することができている人が少なくなってきた現在の、私たちに何ができるのでしょう。もうすぐ終戦から81回目の夏が巡ってきます。戦争の実相（ありのままの真実）をさまざまな立場から、さまざまな事実から知る機会としたいですね。

一本の鉛筆で、平和や愛、希望を綴ることのできる世の

※美空ひばりさんの「二本の鉛筆」をインターネットで検索すると、ひばりさんの訴える平和に触れることができます。



表紙：「手と手をつないで」

イラスト集

奇数月連載の「手と手をつないで」に掲載されるイラストは、イラスト制作をお願いしている藤田英彦さんが色鉛筆で描いた繊細で柔らかな作品です。毎回たくさんさんのイラストを描いていただいております、掲載されなかったイラストの一部を表紙に採用しました。どの号の候補だったのか想像しつつ、ぜひ過去の記事も手に取りながら「手と手をつないで」を振り返ってみませんか？